

1月22日セミナーリフレクション

講師：学び合う学び研究所 シニアフェロー 副島 孝先生

テーマ：『誰もひとりにしない教育』の深～い意味

<p>久しぶりに、副島先生のお話を聴くことができ、とても新鮮な気持ちになりました。</p> <p>授業研究のあり方については、小牧での学びをはじめりとして、依頼を受けたところで話して先生方と学んでいます、自分をさらにバージョンアップしなくてはいけないと強く思いました。ありがとうございました。</p>
<p>「ひとりにしない」をテーマに様々な視点から考えることが大切であることを感じました。</p> <p>自分の言葉で「ひとりにしない」を話せるように、自分なりに考えていき実践していきたいと思った。素晴らしい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。</p>
<p>「互恵的相互依存」で成立する教室の大切さや「全ての違う考えをもつ」ひとりひとりを尊重する学びの必要性を強く、深く研修させていただきました。</p> <p>しかも、そこに至るうえで、多様な視点（経済、地域社会、文芸など）を示していただけたことが理解へのつながりになったと思います。ありがとうございました。</p>
<p>本日は、ありがとうございました。「誰もひとりにしない」「誰一人取り残さない」という言葉をよく聞きますが、実際に誰もひとりにしないとは、どのようなことを言うのかが、少しわかったような気がしました。</p> <p>全体をまとまりとして考えるのではなく、個別の集まりとして全体を見るのが大切なのだと感じました。</p>
<p>ありがとうございました。単なる一実践者である私にとっては、正直、とても難しいお話でした。でも、目の前にいる子ども、教室を思い浮かべることで、自分がやってきたこと、やっていることが、社会や世界につながっているかもしれないと思えました。</p> <p>それを活力にして、また、頑張ります。</p>
<p>ひとりを大切にする事の難しさ、授業の中で「ひとりを観る」・・・どれだけの教師ができているのか。</p> <p>自分を含めて、反省させられる人が多かったのではないのでしょうか。</p> <p>授業改善には、まだまだやらなければいけないことがたくさんあると思い知らされました。ありがとうございました。</p>
<p>「ひとりにしない」について改めて考えようと思いました。</p> <p>グループ活用が当たり前になりましたが、“協同的な学び”をより深いところから再考してみます。「土」の詩、国語科指導法の学生に読ませてみて、どんな読みをするか、学生と楽しみたいと思います。</p>
<p>貴重なお話を、ありがとうございました。</p> <p>今回のお話で、改めてこれからの日本の未来をつくっていく存在であり、その子どもたちを導くのは私たちなのだという、責任を考えなければならないと思いました。</p> <p>自分が目指そうとしている職の責任をもう一度考えて、学んでいきます。</p>
<p>本日は、このような状況の中で開催していただき、ありがとうございました。</p> <p>毎日の授業や学級活動に追われる中で、クラスの子どもたちにどれくらい目を注いでいる</p>

か？と考えながらは話を聴かせていただきました。

子どもたちという言葉に、自分は甘えている気がしました。もっと、〇〇さんにしていかななくてはいけないと思いました。

私は、あまり YouTube を観ませんが、今後、少し見ていきたいと思いました。時代の流れるスピードが、どんどん速くなっていく気がしています。今後もアンテナを高くして、自己研修をしていきたいと思いました。よろしくお願いします。

本当にありがとうございました。早く感染が終息することを願っています。

“同調” 今、職場でうまくやっていくには、これが必要です。しかし、違和感しかありません。

“一人も取り残さないために”私と同じように、違和感を抱えている子に目を向け、ともに歩んでいける教師になっていきたいです。ありがとうございました。

「誰も一人にしない教育」の深〜い意味というタイトルに、まず、魅かれました。副島先生のお話を聞きたいという思いで参加させていただきました。日本の現在の経済的な位置や成長率からはじまり、イノベーションが必要であること。だからこそ、一人一人を大切にしたい協同と探究の学びが大切であることを学ばせていただきました。

先生のお話に、どんどん引き込まれました。目の前の一人一人の子どものために、また、一から頑張ろうと思いました。来週からの活力をいただきました。本当にありがとうございました。

初めてセミナーに参加させていただきました。

「誰もひとりにはしない」教育として、まず、ALL と EVERY から“ひとり”を考えるとという視点がとても新しく興味深かったです。

また、グループで話し合う時間が何度か設けられている中で、現場の先生方のご意見を伺う時間あり、私にとって大変に大きな学びになりました。

また「若者、バカ者、よそ者」を大切にするというお話がとても面白かったです。授業を行ううえでは、進行の妨げになるような発言をする児童・生徒を大切にすることは、現場に行った時も覚えておきたいと思いました。

今回のお話の中で、「多様性」と受けとめる受容するというお話がとても印象的でした。授業を進めていく中で、どうしても教師が欲しい意見に注意が行ってしまいがちで「よそ者」「バカ者」「若者」の子供の意見が流れてしまう場面があったことを思い出しました。

子どもたちも、先生の求めている意見を出そうとして、同じ方向へとしか進まず、広がり、深まりのない授業になってしまいます。なので、しっかりと様々な子どもの意見を受けとめ、多様性を大切にしていけることを重視していくべきだと思いました。

テーマ「誰もひとりにはしない」を本当に考え直させられました。様々な背景の中から出てきていることを、改めて感じさせられました。

安易に使っていることもありますが、本質をとらえて使っていきたい。いかなければならないと感じました。一言で孤立といいます。言葉や意味、状況も考えさせられました。

真に、協同、共同する学びを追求していく、そんな学びの実現を目指していきたいと思いました。今日は、本当にありがとうございました。

本校の教育目標は、「温かな人間関係を基盤にした、全員参加の授業づくり、学級づくり、学校づくり」です。「誰もひとりにしない」と通じるところがあると思い、参加させていただきました。

特に考えさせられたのが、互恵的な協力関係の話です。温かな人間関係は、お互いに恵みを受け、お互いを幸せにすることで、西郷孝彦氏の語るような学級づくりができると思いました。課題も見つかりましたので、答えを探っていきたいと思います。ありがとうございました。

様々な考えを巡らせる良い時間を過ごさせていただきました。

経済が低迷していると同時に、教育の場においても大きなイノベーションが期待されるという意味がよくわかりました。私は、ICTなど、環境的なことは確かに変化してきましたが、イノベーションという観点では、旧来のままのように思います。

大きな変化を自分ではできませんが、守屋先生の視点のように、視点を変えて授業を見る。あるいは、視点を変えた見方をどんどん試してみたいと思いました。

いつもながら、副島先生の示唆に富んだ話、ありがとうございました。

協同と探究が大切だと言われている中で、協同学習のメリットやデメリットを考えながら取り組んでいきたい。

自分はしゃべりすぎてしまう時があるので、子どもを信じることの大切さを改めて確認できた。印象に残った言葉は「木を見て、森を見ず」という考えです。森の木の本一本一本を子どもの個性として考え、とことん子どもの個々の子に尽くすことで、クラス全体が見えてくる。

「一番心配な子どもに焦点を合わせる。」というのは、とても納得がいきましたが、一方で、できる子たちが力を持て余す心配、特に本人たちより保護者に納得してもらうのに相当な覚悟がいると思った。

グループ学習を行っている授業を参観すると、その中でもやはり取り残されている生徒がいるのを目にすることがあり、気になる。生徒、教師ともにグループ学習に慣れて、そうした生徒が出ないようになっていくのだろうか。(しなければならぬ。)

「子どもの自主性や主体性を育むこと」の大切さは、どの教科もわかっているのですが、その育み方がわからないと常々思っています。

副島先生のお話から、「四つのOS」の中で、特にOS1「多様性の受容と尊重」についての理解が不十分であるからだと思います。この重要性を教師が実感として理解することで、学校のイノベーションが進むと思いました。

例えば、「いじめをなくす」を目的にするのではなく、「多様性の受容と尊重」を目標にすれば、必然的にいじめがなくなるはずです。

また、「同質からは、よいものは生まれない」と考えています。「多様性の受容と尊重」により、誰もが幸せな社会をつくる子どもを育てることができます。

久々に副島先生のお話をじっくり聴かせていただく機会で、とってもワクワクしていました。

副島先生ありがとうございました。授業で学ぶ教師の会等でこれまでも先生からいっぱい学び、お話を楽しみにしていました。

先生もお話になりましたが、今日はこれまでの講師の先生方がセミナー等で語られないお話や視点をずっと考えておられたことがよくわかりました。

20年前にすてきな仲間と一緒に、小牧にイノベーションを起こされたときと、今でも全く変わっておられないと思いました。今でも学び続けておられる副島先生ならではの言葉や視点にあっという間の2時間でした。時間の制約があり、いつも先生がなされている「資料をみんなで音読する時間」を各自の黙読にリデザインなされ、グループでたっぷり対話する時間も短く切りあがられました。まだまだお聞かせいただきたいので、栗木先生の研修会での連続講座だけでなく、来年は連続講座として何回も開催していただきたいと思いました。これからもいっぱい学ばせてください。よろしくお願いします。

学びの共同体、学び合う学びの意味・意義について、もう一度考えてみるきっかけになりました。

支配的ディスコースと対立的ディスコースのところが、自分は気になりました。それは、今、学校現場（自分の学校）でも、学びの共同体の理念に基づく学校の変革に継続的に取り組んでいるのですが、近年は、小規模校にもかかわらず、どんどん初任者が入ってきて、初任から経験するこの学び合う学び自体が「支配的ディスコース」になっているのではないか・・・という点です。

自分自身が学び合いに出会ったとき、「こんな学びに、自分が小さなころから体験していたら、もう少しまともになっていたのでは」と感じるほどに、驚きをもって学び合いを経験したのですが、現在の学校の先生方に、こうしたセンスオブワンダーのような体験をさせてあげることが、全くできていないのではと感じています。

どうすればいいのか、もう少し考えていきたいと思っています。